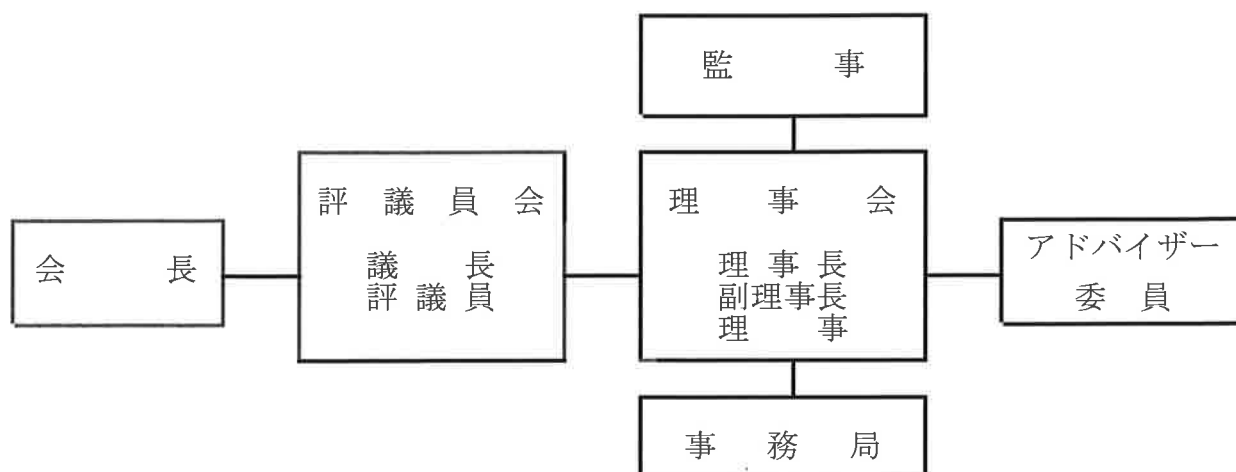


平成25年度
事業報告書

公益財団法人 京都府国際センター

1 組 織 ・ 体 制

(1) 組 織 図



(2) 役 員 等 (平成26年3月現在)

順不同・敬称略

役 職 名	氏 名	役 職 等
会 長	山 田 啓 二	京都府知事
理 事 長	尾 池 和 夫	京都大学前総長
副理事長	須 藤 眞 志	日本国際連合協会京都府本部理事長
理 事	久保田 勇	宇治市国際親善協会会長
同	藤 村 益 弘	京丹後市国際交流協会会長
同	塩 見 日出勝	福知山市国際交流ネットワーク会議会長
同	梶 田 熙	(特活)京都海外協力協会総括監事
同	斎 木 宣 隆	(独法)国際交流基金京都支部長
同	三 嶋 理 晃	京都大学理事・副学長
同	斉 藤 延 喜	同志社大学国際連携推進機構副機構長・国際センター所長
同	見 上 崇 洋	立命館大学総長特別補佐
同	八 木 茂	(一社)京都経済同友会理事・事務局長
同	保 科 秀 行	(公社)京都府観光連盟専務理事
同	杉 崎 裕 子	国際ソロプチミスト京都理事
同	小 林 育 朗	(公社)京都青年会議所直前理事長
同	村 上 公 伸	京都府国際課課長
常務理事	有 馬 透	(公財)京都府国際センター常務理事
監 事	岡 田 博 邦	(一社)京都銀行協会前専務理事
同	光 田 周 史	公認会計士

(3) 評 議 員 (平成26年3月現在)

順不同・敬称略

役 職 名	氏 名	役 職 等
議 長	山 岡 景一郎	京都アジア友好協会会長
評 議 員	山 内 修 一	京都府副知事
同	汐 見 明 男	京都府町村会会長
同	久 嶋 務	京都府市長会会長
同	糟 谷 範 子	京都市国際化推進室室長
同	神 崎 清 一	(公財)京都YMCA総主事
同	稲 盛 豊 実	(公財)稲盛財団専務理事
同	内 藤 暁 吾	(公財)大学コンソーシアム京都専務理事
同	河 内 秀 則	NHK京都放送局局長
同	細 井 俊 介	(株)京都放送専務取締役
同	桑 原 毅	(株)京都新聞社論説委員長
同	木 戸 崇 夫	(一社)茶道裏千家淡交会常任理事
同	池 坊 由 紀	(公財)日本いけばな芸術協会副会長
同		(池坊次期家元)
同	金 剛 育 子	(公財)金剛能楽堂財団業務執行理事
同	福 永 晃 三	京都商工会議所副会頭
同	中 畔 都 舎子	京都府連合婦人会会長

(4) アドバイザー委員 (平成26年3月現在)

順不同・敬称略

役 職 名	氏 名	役 職 等
アドバイザー委員	中 川 良 雄	京都外国語大学教授
同	天 江 喜七郎	(公財)国立京都国際会館前館長
同	伊 部 京 子	和紙造形作家
同	エルンスト・ザイラー	ピアニスト
同	宮 下 和 夫	創作舞踊公演制作家
同	水 野 彌 一	京都大学アメリカンフットボール部前監督
同	田 中 田 鶴子	海外研修KY0のあけぼの会会長
同	ポーリン・ケント	龍谷大学教授
同	タデウシュ・オジュグ	京都府名誉友好大使

2 管 理 運 営

(1) 理 事 会

平成25年度第1回理事会

日 時：平成25年6月5日（水）午前10時15分～12時00分

場 所：当センター会議室

出席者：理 事 10名

監 事 2名

次 第：① 開 会

② あいさつ

③ 議 事

報告事項 理事の退任について

第1号議案 平成24年度事業報告及び決算報告について

第2号議案 評議員候補者の推薦について

第3号議案 評議員会の開催について

（議案は、原案どおり可決された。）

報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況報告

④ そ の 他

⑤ 閉 会

平成25年度臨時理事会

日 時：平成25年7月2日（火）午後2時00分～2時30分

場 所：当センター会議室

出席者：理 事 13名

監 事 2名

次 第：① 開 会

② あいさつ

③ 議 事

報告事項 理事の退任について

報告事項 理事の就任について

第1号議案 常務理事の選任について

第2号議案 常務理事の報酬について

（議案は、原案どおり可決された。）

④ そ の 他

⑤ 閉 会

平成25年度第2回理事会

日 時：平成26年3月25日（火）午後1時00分～2時30分

場 所：当センター会議室

出席者：理 事 11名

監 事 2名

次 第：① 開 会

② あいさつ

③ 議 事

報告事項 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況報告

第1号議案 平成26年度事業計画について

第2号議案 平成26年度収支予算について

第3号議案 理事長専決事項の承認について

（議案は、原案どおり可決された。）

④ そ の 他

⑤ 閉 会

（2）評 議 員 会

定時評議員会

日 時：平成25年6月25日（火）午前10時00分～11時50分

場 所：当センター会議室

出席者：評議員 9名

理 事 2名

監 事 2名

次 第：① 開 会

② あいさつ

③ 議 事

報告事項 評議員の就任について

第1号議案 平成24年度事業報告及び決算報告について

第2号議案 理事の選任について

（議案は、原案どおり可決された。）

報告事項 平成25年度事業計画及び予算について

④ そ の 他

⑤ 閉 会

(3) 評議員選定委員会

日 時：平成25年6月17日（月）午後1時30分～2時00分

場 所：当センター会議室

出席者：選定委員 4名

次 第：① 開 会

② 概況報告

③ 議 事

議 案 評議員の選任について（久嶋務 氏、河内秀則 氏）
（議案は、原案どおり可決された。）

④ 閉 会

(4) 賛 助 会 員

府民の参加と協力を得て活発に活動を進めるため、当センターの趣旨に賛同し協力していただける個人及び団体等の賛助会員を募集した。

会 費

・個人会員 年会費1口 3,000円

・団体会員 年会費1口 10,000円

会 員 数（3月末現在）

・合 計 129名・団体

・個人会員 108名

・団体会員 21団体

(5) センター利用状況（3月末現在）

平成25年度の利用状況は次のとおりである。

・合 計 18,137名

3 平成25年度活動状況

主な活動の経過

実施月日	内 容
5月 9日～ 7月18日	外国人住民のための日本語教室（基礎クラス・20日間）
5月11日	国際交流員派遣事業（宇治市）
5月11日～ 7月13日	外国人住民のための日本語教室・春夏期（会話クラス・10日間）
5月11日～ 7月27日	日本語支援ボランティア養成講座（南丹市）
5月12日・18日	国際理解講座「多文化社会～フランスとイギリス～」
5月16日	近畿地域国際化協会連絡協議会研究会
5月22日・29日	多文化共生セミナー「外国人住民とともにつくる地域の未来」（京丹後市）
5月25日	国際交流員派遣事業（亀岡市）
5月26日	外国人住民のための防災オリエンテーション・訓練（綾部市、舞鶴市）
5月26日	留学生等のための無料ビザ相談
5月30日	多文化共生セミナー「在住外国人に対する地域の役割」（城陽市）
6月 5日	第1回理事会
6月16日	国際交流員派遣事業（精華町）
6月17日	評議員選定委員会
6月22日・29日	国際人財ラウンド・テーブル
6月23日	留学生等のための無料ビザ相談
6月25日	定時評議員会
6月27日	日本語学習者のための生活安全・交通安全教室
6月29日	国際交流員自主事業「留学生、子育てしている保護者のための「簡単にできるお弁当」料理教室」
7月 2日	臨時理事会
7月 6日・ 7日	京都フィールドトリップ（京丹後市）
7月 7日	祇園祭体験事業 講演会「外国人から見た祇園祭」
7月11日	近畿地域国際化協会連絡協議会総会
7月14日	「やさしい日本語」による災害時情報提供研修（近畿地域国際化協会連絡協議会共同事業）
7月17日	祇園祭体験事業 山鉦曳き体験
7月27日	災害時サポーター研修「日本語教室における防災教育」（南丹市）
7月27日	「新入管法」施行から1年 外国につながる子どもの教育～現状と課題～
7月28日	留学生等のための無料ビザ相談
8月25日	留学生等のための無料ビザ相談
8月26日	第1回京都府北中部日本語教室ネットワーク会議（綾部市）

9月 1日	京都府総合防災訓練（宮津市）
9月14日・15日	第13回国際協カステーション
9月22日	留学生等のための無料ビザ相談
9月26日	近畿地域国際化協会連絡協議会研究会
9月28日	災害時サポーター研修「『やさしい日本語』って何？」（南丹市）
9月28日	国際交流員派遣事業（木津川市）
10月 3日～12月16日	外国人住民のための日本語教室・秋冬期（基礎クラス・20日間）
10月 5日～12月14日	外国人住民のための日本語教室・秋冬期（会話クラス・10日間）
10月19日	外国人防災訓練・災害時通訳翻訳ボランティア研修（近畿地域国際化協会連絡協議会共同事業）
10月20日	京都フィールドトリップ（南丹市）
10月20日	国際人財ラウンド・テーブル
10月21日	日本語を母語としない保護者への支援～外国につながる子どもを育てる～（京丹後市）
10月26日	国際人財ラウンド・テーブル
10月26日	きょうと留学生ハウス キャリア形成ガイダンス
10月27日	留学生等のための無料ビザ相談
10月31日	国際人財ラウンド・テーブル
11月 2日～30日	日本語支援ボランティア研修会（福知山市）
11月 5日	国際交流員派遣事業（久御山町）
11月 8日	国際交流員派遣事業（京都市）
11月 9日	国際人財ラウンド・テーブル
11月10日	日本語支援ボランティア研修「“学びあい” わいわいセッション」
11月16日	国際人財ラウンド・テーブル
11月17日・24日	国際理解講座「魅力あふれるジロンド県」
11月19日	在関西総領事館と連携した防災ワークショップ（近畿地域国際化協会連絡協議会共同事業）
11月21日	国際人財ラウンド・テーブル
11月23日	国際人財ラウンド・テーブル
11月24日	外国人住民のための防災オリエンテーション・訓練（城陽市）
11月24日	留学生等のための無料ビザ相談
11月28日	国際人財ラウンド・テーブル
11月28日	近畿地域国際化協会連絡協議会研究会
12月 3日・ 7日	外国につながる子ども・保護者サポーター研修（亀岡市）
12月 7日	第8回京都留学生体育祭
12月 8日	京都フィールドトリップ（亀岡市）
12月12日	日本語学習者のための119番通報練習

12月16日・20日	国際交流員派遣事業（京都市）
12月19日	国際人財ラウンド・テーブル
12月22日	留学生等のための無料ビザ相談
1月 9日	第2回京都府北中部日本語教室ネットワーク会議（綾部市）
1月16日	国際人財ラウンド・テーブル
1月17日	国際人財ラウンド・テーブル
1月17日	防災啓発事業（近畿地域国際化協会連絡協議会共同事業）
1月18日	国際人財ラウンド・テーブル
1月18日	災害時外国人支援ボランティア通訳スキルアップ研修（近畿地域国際化協会連絡協議会共同事業）
1月19日	現地災害多言語支援センター運営研修（城陽市）
1月25日	国際人財ラウンド・テーブル
1月25日～ 2月22日	日本語支援ボランティア研修会（精華町）
1月26日	現地災害多言語支援センター運営訓練（城陽市）
1月26日	国際交流員派遣事業（南丹市）
1月26日	留学生等のための無料ビザ相談
2月1日・9日・16日	外国につながる子ども・保護者サポーター研修
2月 3日～ 3月24日	外国人住民のための日本語教室追加レッスン（基礎クラス・8日間）
2月20日	地域国際化ネットワーク会議
2月20日	多文化共生セミナー「多文化社会における情報発信～多様性の重視と少数者の視点～」
2月22日	国際理解講座「フランスサロン～食文化～」
2月23日	留学生等のための無料ビザ相談
3月 2日	日本語支援ボランティア研修「考えてみよう！これからの日本語教室」（城陽市）
3月 2日	国際交流員派遣事業（亀岡市）
3月 8日	国際人財ラウンド・テーブル
3月13日	外国人住民と支援者のための生活相談会（京丹後市）
3月13日	近畿地域国際化協会連絡協議会研究会
3月15日・16日	京都フィールドトリップ（精華町）
3月16日	第3回京都府北中部日本語教室ネットワーク会議
3月22日	国際理解講座「フランスサロン～恋愛と結婚～」
3月23日	留学生等のための無料ビザ相談
3月25日	第2回理事会
3月29日	外国人住民と支援者のための生活相談会

(公財) 京都府国際センター 平成25年度事業報告(付属明細書)

府民参画、府民連携により京都府の国際化の推進を図り、多文化共生社会を実現するため、多文化共生のための地域づくりを柱に府民や団体と連携し事業を実施しました。

1-1. 多文化共生のための地域づくり ～ 留学生との共生推進

留学生支援

多文化共生社会の実現に向けて、留学生等社会参加支援、ネットワークづくり、情報発信等の事業を実施しました。

(1) 留学生等支援事業(京都府補助対象事業)

留学生等支援員を委嘱し、相談対応をはじめ各種支援事業を企画実施した。

◆ 留学生等のための相談窓口

支援員を配置し、生活相談や日本でのキャリア形成の相談等に対応(5月に開始)

[日 時] 毎週 水・土・日曜日 10:00～17:00

[場 所] 京都府国際センター

[対象者] 外国人留学生等

[対 応] 外国人留学生等のための支援員

[言 語] 日本語

* 必要な場合は、中国語、韓国・朝鮮語、

フィリピン語、スペイン語、ポルトガル語の通訳手配可能

[件 数] 相談対応 延べ328名

情報提供 120件

[内 容] 就職活動に関する基礎的事項の相談

就職したがキャリア形成につながらず転職希望する相談

英語の講義のみで日本語が話せず就職活動がむずかしいという相談

就職後、結婚する際の住宅保証人に関する相談 等



きょうと留学生ハウス キャリア形成ガイダンス

[日 時] 10月26日(土) 15:00～17:00

[場 所] きょうと留学生ハウス(京都市上京区)

[参加者] 同ハウス入居学生のうち15名

[内 容] これからの就職活動の仕方

外国人留学生と志望動機

企業について知る



※「外国籍府民のための生活相談事業」を平成24年度で終了

◆ 国際人財ラウンド・テーブル（交流とキャリア形成支援）

留学生が日本の企業文化を理解し日本でキャリア形成するための研修、指導
留学生が企業・講師と双方向で情報交換する場

企業との情報交換会・交流会 （場所 京都府国際センター）

～企業を招き、留学生と双方向の情報交換、質疑応答、談話

[日 時]

[参加者]

6月22日、29日（土）13:00～18:00	留学生 68名、企業 12社
11月21日（木）13:00～18:00	留学生 27名、企業 5社
1月17日（金）13:00～17:00	留学生 19名、企業 5社
1月18日（土）13:30～17:10	留学生 19名、企業 4社
1月25日（土）13:00～17:00	留学生 11名、企業 5社
3月 8日（土）13:00～18:00	留学生 17名、企業 4社
以上、計7回	留学生161名、企業35社（延べ）



留学生等支援員や講師を招いた研修会 （場所 京都府国際センター）

～研修を実施した後、ワークショップで意見交換

[月 日] 10月20日（日）、26日（土）、31日（木）

11月 9日（土）、16日（土）、23日（土）*、28日（木）

12月19日（木）

1月16日（木）

* 場所：大学コンソーシアム京都

[参加者] 以上 計9回

留学生 延べ96名

特別参加企業 5社



◆ 留学生等のためのビザ相談

出入国管理の手続き等について、専門家の協力を得て、特に困難な問題解決を支援

[協 力] 京都府行政書士会

[日 時] 毎月第4日曜日 13:00～16:00（要予約）

[場 所] 京都府国際センター

[対象者] 留学生等の外国人住民

[対 応] 行政書士 ※必要に応じて通訳を手配 [件 数] 22件

(2) 留学生等の交流推進

◆ 京都フィールドトリップの実施

留学生を中心に外国人住民が参加し、府内の資源や産業、伝統行事、生活文化等に触れ、府民との相互交流の輪を広げた。

[主 催] 京都府国際センター、京丹後市国際交流協会

[共 催] 伊根町

[月 日] 7月6日(土)～7日(日)

[場 所] 京丹後市、伊根町

[内 容] 舟屋見学、魚さばき体験
おにぎり・ぼた餅づくり
ホームステイ・交流

[参加者] 留学生40名、ホストファミリー28家族



[主 催] 京都府国際センター、南丹市国際交流協会

[月 日] 10月20日(日)

[場 所] 南丹市(府民の森日吉)

[内 容] 座禅体験、マイ箸体験
野点、あゆ・昼食、いもほり
交流プログラム

[参加者] 留学生33名
地元住民等97名



[主 催] 京都府国際センター、生涯学習かめおか財団、亀岡国際交流協会

[月 日] 12月8日(日)

[場 所] 亀岡市

[内 容] 城下町ウォーク、ホームビジット

[参加者] 留学生等18名
ホストファミリー・地元住民56名



[主 催] 京都府国際センター、精華町

[月 日] 3月15日(土)～16日(日)

[場 所] 精華町

[内 容] いちご狩り、ワールドクッキング交流
ホームステイ

[参加者] 留学生等16名
ホストファミリー5家族
地元住民17名



◆ 祇園祭体験事業

留学生をはじめ外国人住民の祇園祭参加体験を支援

[月 日] 7月17日(水)
[場 所] 京都市内
[内 容] 外国人住民祇園祭曳き手ボランティア
の活動支援(参加者との打合せ、主催者
との間に立ち連絡調整、監修)
[参加者] 20名



* これに先立ち、講演会「外国人から見た祇園祭」を開催

[日 時] 7月7日(日) 13:30~15:30
[講 師] シャヒード・ルパニ氏
[参加者] 41名 [言語] 英語



◆ 日本文化紹介クラス

日本文化の理解と多文化共生の推進を図るため、ボランティア団体の活動を支援

通年クラス

[場 所] 京都府国際センター内
ボランティアコーナー等
[内 容] つまみ細工(第2金曜日)
書道(第1・3土曜日)、手まり(第2土曜日)
生け花(第4土曜日)、着物着つけ(土曜日1回)、折り紙(第1日曜日)、
日本舞踊(第4日曜日)、煎茶道(第2日曜日)、茶道(参加者と先生が調整)



◆ 京都留学生体育祭(第8回)の開催支援

留学生がスポーツを通じて国籍・地域、大学の枠を越えて交流

[主 催] 京都留学生体育祭実行委員会、京都府、京都府国際センター
[日 時] 12月7日(土) 10:00~18:00
[場 所] 島津アリーナ京都(京都府立体育館)
[内 容] バスケットボール、ミニサッカー
卓球、バドミントン、綱引き
[参加者] 京都で学ぶ留学生等300名
[備 考] 新たにミニサッカー競技を行い、多国籍の
留学生が参加し友好を深めた。



(3) 留学生等のための情報発信事業

(1-2. (3) 多文化共生情報発信事業 にて記載)

1-2. 多文化共生のための地域づくり ～外国人住民との共生推進、地域の取組支援

(1) 災害時支援事業 (京都府補助対象事業)

災害時支援

◆ 外国人住民のための防災オリエンテーション、訓練の実施

外国人住民に災害や防災への理解を深め実際に訓練してもらうための機会づくり
地域の国際化協会と共同し、地域のニーズに応じて企画実施

【場所：綾部市、舞鶴市】

〔共 催〕 綾部市国際交流協会

〔日 時〕 5月26日(日) 8:30～17:00

〔場 所〕 舞鶴市(舞鶴市防災センターほか)

〔内 容〕 消火訓練、災害時避難訓練等

〔参加者〕 日本語教室に参加する外国人住民及びその家族、友人 58名



【場所：城陽市】

〔共 催〕 城陽市国際交流協会

〔日 時〕 11月24日(日) 8:45～13:30

〔場 所〕 城陽市(寺田南小学校グラウンド)

〔内 容〕 消火訓練、災害時避難訓練等

城陽市防災マップの説明

〔参加者〕 外国人住民(城陽市、宇治市、京田辺市等在住) 10名

日本人サポーター・通訳 12名



◆ 京都府総合防災訓練に参加

災害発生時に次々発信される多くの情報に対応し、現場できめ細かな意思疎通を行う
ために役立つ「やさしい日本語」を紹介するため、展示、ワークショップを実施

〔日 時〕 9月1日(日) 10:00～11:00 (激しい雨のため時間短縮)

〔場 所〕 宮津市(宮津運動公園)

〔内 容〕 「やさしい日本語」の紹介、展示
・災害情報の書き換え例の紹介
・書き換えの実践練習

〔展示等協力〕 市町村、市町村国際化協会等 9名



◆ 災害時外国人サポーター(当センターボランティア)の募集・登録

平成26年3月 46名

◆ 現地災害多言語支援センター運営研修・訓練

災害発生時に、外国人住民支援のため現地に設置され、各地からの支援者の参画が想定される「災害多言語支援センター」を円滑に運営するため研修及び訓練を実施。

従来は、基本的な知識やスキルの修得のため研修・訓練を行ったが、今回は、想定する被災地で、地元国際化協会の事務所において訓練と事前研修を実施した。

事前研修

[共 催] 城陽市国際交流協会

[日 時] 1月19日(日) 13:30~16:00

[場 所] 城陽市(城陽市国際交流協会)

[内 容] 多言語支援センターを実際に運営する際に必要となる地元情報について学び、具体的に情報を収集、整理



◇城陽市防災課からの講義

◇情報収集、整理 ・外国人住民の居住状況を確認

・市内外の連絡先リストを作成

・難読地名、駅名、バス停名等の整理

・避難所等、関連施設・機関の情報を整理 ほか

[講 師] NPO 多文化共生マネージャー全国協議会 高木副代表理事

[参加者] 城陽市職員、城陽市国際交流協会役職員・会員、京都府国際センター職員等 17名

訓 練

[共 催] 城陽市国際交流協会、近畿地域国際化協会連絡協議会

[日 時] 1月26日(日) 13:00~18:00

[場 所] 城陽市(城陽市国際交流協会)

[内 容] 多言語支援センターの運営について訓練

・総務班、情報班、IT 班に

分かれて業務を経験

・災害対策本部情報の整理、

抽出、翻訳、発信を経験

・京都府国際センターによる

翻訳支援を実施



[講 師] NPO 多文化共生マネージャー全国協議会 高木副代表理事

[参加者] 近畿の地域国際化協会役職員、京都府内の国際化協会職員、京都府国際センター登録ボランティア・支援員等 43名

◆ 災害時サポーター研修の実施

災害時の外国人住民支援について、日頃の接点となる日本語学習支援ボランティアに理解を深めてもらう研修

【場所：南丹市】

〔共 催〕 南丹市国際交流協会

〔日 時〕 7月27日（土）10:00～13:00

〔場 所〕 京都美術工芸大学

〔内 容〕 日本語教室における防災教育、やさしい日本語について

講師：「やさしい日本語」有志の会

〔参加者〕 日本語支援ボランティア養成講座受講者39名

〔共 催〕 南丹市国際交流協会

〔日 時〕 9月28日（土）10:00～12:00

〔場 所〕 南丹市国際交流会館

〔内 容〕 災害時に外国人が陥る状況

やさしい日本語への書換ワークショップ

講師：「やさしい日本語」有志の会

〔参加者〕 日本語支援ボランティア、災害時外国人サポーター等 28名

◆ アンケート調査による現状把握

「外国人住民の防災意識調査」結果の公表（10月）

>>>概要は次ページ参照

〔調査期間〕 平成24年11月～25年1月

〔調査主体・実施者〕 京都府国際センター、「やさしい日本語」有志の会

〔協 力〕 京都大学防災研究所巨大災害研究センター矢守研究室

京都にほんご Rings

〔調査対象〕 20歳以上の府内在住外国人住民 506名（有効回答数）

〔趣 旨〕 定住する外国人住民や留学生の防災意識、災害への備え、懸念等について現状を把握し、今後の事業企画に生かす

京都府外国人住民に向けた防災についてのアンケート調査結果について

調査の方法 質問紙調査 質問紙は日本語のほか10言語で作成し、市町村国際化協会、日本語教室、日本語学校、教会などの協力を得て配布・回収

調査項目

- ① 災害への意識について（災害への不安、防災対策、防災訓練、避難所等）
- ② 日常の情報入手方法について（情報源、使用メディア、インターネット利用）
- ③ 地域とのかかわりについて（地域の日本人との交流、地域の活動）
- ④ 使っている言葉について（日本語能力、日本語学習状況、使用言語）
- ⑤ 回答者の属性（性別、年齢、国籍・地域、居住地、在留資格、滞在期間等）

結果概要

- 外国人住民は地震など災害に対する不安は日本人よりも総じて希薄で、特に留学生は災害に対する危機感が低い。それにもかかわらず災害発生を想定した質問に対しては日本人以上に不安を表明しており、「帰宅困難」については日本人の倍ほどの割合となっている。
- 地震が起こったときの正しい行動を知らない者の割合が高く、何の行動も思いつかない者も相当数いる。また、「避難所」を知らない者も半数を超え、実際に避難する場所を知っている者の割合は25%にとどまり日本人に比べて極端に低い。
- 防災訓練や講習会に参加したことがある者は日本人と同様に低い割合だが、参加を希望する声も多く、「知らない」「参加の仕方がわからない」などの理由で参加したくても機会を得られない者が相当数いる。
- 情報入手方法としてインターネットやFacebookの利用率が高く、情報発信のツールとして有効である。情報源をインターネットに頼りがちであるが、他方で、住んでいる地域とは「あいさつをする」程度の関係にとどまっており、災害時に通信が不安定化することも考えると、在住地域の日本人や自治会・町内会とのコミュニケーションを深めることが必要である。

今後の対策

- 平常時の防災知識の普及、「やさしい日本語」の普及
- 市町村、国際化協会等と連携した防災訓練への参加促進
- FacebookなどSNSを活用した緊急情報の提供

※詳細は当センターホームページからもダウンロードができます。

「外国人住民の防災意識調査」結果の公表について

内閣府が実施する有識者ヒアリングで

参加有識者に取り上げていただきました。

実 施 者 内閣府 定住外国人施策推進室

ヒアリング 「日系定住外国人施策に関する行動計画」見直しに向けた
地方自治体、有識者ヒアリング

実 施 日 平成 25 年 12 月 13 日（金）

参加有識者 佐藤 和之 氏（弘前大学人文学部教授）

西原 鈴子 氏（独立行政法人国際交流基金日本語国際センター所長）

KBSラジオ「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ

～ほっかほか噺の朝ごはん～」で取り上げられました。

番組趣旨 旬でタイムリーな話題を、生の声でリスナーに届ける。

放送日時 11月21日（木）7:15～7:35

内 容 近藤事業課長が電話取材に応じて、災害に対する外国人住民のとらえ方
や外国人が置かれる状況など、調査結果をもとに具体例をあげて紹介。

京都新聞、毎日新聞、産経新聞で取り上げていただきました。

そのほか、「外国人のための防災ガイドブック」の作成、携帯メールによる防災関連情報等の配信を行った。

◆ 近畿地域国際化協会連絡協議会と連携（共催）した事業

<研究会の開催>

近畿府県・政令市の地域国際化協会8団体が参加

[月 日] 5月16日（木）、9月26日（木）、11月28日（木）、
3月13日（木）

[場 所] 兵庫県国際交流協会（神戸市内 国際健康開発センター）

[内 容] ・近畿各地の国際化協会による訓練・研修事業の共同実施を協議
・関西広域連合の災害対応について情報交換

<研修・訓練の実施>

[月 日] 7月14日(日)
[場 所] 大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)
[内 容] 「やさしい日本語」による災害時情報提供研修
・「やさしい日本語」に関する講義
・ワークショップ(災害時情報の翻訳練習)
[参加者] 当センター、当センター登録ボランティア、近畿地域国際化協会
27名

[月 日] 10月19日(土)
[場 所] 神戸国際協力交流センター(神戸市内 貿易センタービル)
[内 容] 外国人防災訓練・災害時通訳翻訳ボランティア研修
「外国人・日本人“ともに学ぶ”防災体験ツアー」
・避難所体験、救急講習、非常食体験
[参加者] 当センター、当センター登録ボランティア、市内在住外国人、
近畿地域国際化協会 65名

[月 日] 11月19日(火)
[場 所] マイドームおおさか(大阪市中央区)
[内 容] 在関西総領事館と連携した防災ワークショップ
・英国、フィリピン総領事館の取組説明
・災害時の在外公館対応について情報交換、質疑応答
[参加者] 当センター、近畿地域国際化協会、大阪府、大阪市
在関西総領事館、外務省大阪分室、法務省大阪入国管理局
59名

[月 日] 1月17日(金)
[場 所] 兵庫県国際交流協会(兵庫県)
[内 容] 災害時のコミュニケーションに係る研修
[参加者] 当センター、近畿地域国際化協会職員、登録ボランティア等 30名

[月 日] 1月19日(土)
[場 所] 滋賀県立男女共同参画センター(滋賀県)
[内 容] 災害時外国人支援ボランティア 通訳スキルアップ研修
[参加者] 当センター、近畿地域国際化協会職員、登録ボランティア等 25名

(2) 社会参画促進事業 ～ 日本語学習支援を通じた社会参画促進

日本語学習支援

◆ 生活者のためのモデル日本語教室（京都府補助対象事業）

- ・ 各地域の日本語教室のモデル教室として実施
- ・ ボランティアの育成、カリキュラムの開発等を通じて日本語学習を支援

【春 期】月木コース 5月 9日（木）～ 7月18日（木）10:15～12:30
土曜コース 5月11日（土）～ 7月13日（土）10:15～12:30

【秋 期】月木コース 10月 3日（木）～12月16日（月）10:15～12:30
土曜コース 10月 5日（土）～12月14日（土）10:15～12:30

※ 月木コース：各期20日間60レッスン
土曜コース：各期10日間30レッスン
2月3日～3月24日：追加レッスンを実施



【場 所】 京都府国際センター
【講 師】 京都「えき」日本語教室、京日会
【参加者】 春期：外国人住民 計46名、 秋期：外国人住民 計49名
【モデル事業】 教室の公開：京都府内のボランティア日本語教室の講師に公開（要予約）
綾部市、南丹市、亀岡市等の国際交流協会・日本語教室が見学
モデル・カリキュラムの作成

<防犯・防災体験教室>

「モデル日本語教室」のプログラムに組み込んで実施

生活安全・交通安全教室

【日 時】 6月27日（木）10:15～12:30

【場 所】 京都府国際センター

【協 力】 下京警察署

【内 容】 ・ 自転車の乗り方指導

・ 落とし物など困ったときの交番でのやりとり練習 等

※テレビ取材 KBS京都（news フェイス 17:45～）に取材・放映いただきました。



119番通報練習

【日 時】 12月12日（木）10:15～12:30

【場 所】 京都府国際センター

【協 力】 下京消防署

【内 容】 ・ 消火器訓練

・ 火事や防火に関する指導 等



◆ 日本語ボランティアの育成支援（文化庁委託事業）

外国人住民にとって生活全般にわたり心強いサポーターとなる日本語ボランティアの活動を円滑なものにするため、広域的な研修会を開催

【場所：南丹市】

〔共 催〕 南丹市国際交流協会

〔後 援〕 亀岡市、亀岡国際交流協会

〔月 日〕 5月11日（土）～7月27日（土）

10:00～13:00 計10回

〔場 所〕 南丹市（京都美術工芸大学）

〔内 容〕 「日本語支援ボランティアとは」「動詞 ます形・普通形」「動詞 て形・た形」「動詞 ない形」「形容詞」「可能形」「敬語」、模擬授業

〔講 師〕 京都教育大学教授 浜田麻里氏、京都にほんごRings、京都YWCA APT

〔参 加〕 日本語支援ボランティアとして活動する意志のある方41名

（南丹市、亀岡市、京丹波町から参加）



【場所：福知山市（北部地域）】

〔共 催〕 京丹後市国際交流協会、福知山日本語交流会、綾部国際交流協会、南丹市国際交流協会、京丹波町国際交流協会、亀岡国際交流協会

〔協 力〕 （公財）京都日本語教育センター（京都日本語学校）

〔月 日〕 11月2日、9日、16日、30日（土）13:30～16:30

〔場 所〕 福知山市（京都府立中丹勤労者福祉会館）

〔内 容〕 「日本語は名詞がポイント」

「日本語の時制は実に明快」

「動作の流れは動きの連続」ほか

〔講 師〕 京都日本語教育センター

代表理事 西原純子 氏 ほか

* 外国人学習者4～6名が参加

〔参 加〕 地域で日本語支援ボランティアとして活動する方34名

（京都府北中部の各地から参加）



【場所：精華町（南部地域）】

〔共 催〕 精華町、せいかグローバルネット

〔協 力〕 （公財）京都日本語教育センター（京都日本語学校）

〔月 日〕 1月25日（土）、2月1日（土）、8日（土）、22日（土）

全4回 13:30～16:30

〔場 所〕 精華町（精華町役場）

〔内 容〕 北部地域での実施プログラムと同様

〔参 加〕 地域で日本語支援ボランティア

として活動する方29名



【場所：城陽市】

日本語支援ボランティア研修「考えてみよう！これからの日本語教室」

〔主 催〕 城陽市国際交流協会、NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会

〔協 力〕 京都府国際センター

〔日 時〕 3月2日（日） 13:30～16:30

〔場 所〕 城陽市国際交流協会

〔内 容〕 講演「考えてみよう！これからの日本語教室」

NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 土井佳彦 氏
事例発表「生まれ変わった日本語教室～大阪での取り組み～」

（一財）海外産業人材育成協会関西研修センター 講師 澤田幸子 氏

〔参 加〕 29名（城陽市、木津川市、南丹市、亀岡市、八幡市、宇治市）

◆日本語学習支援ネットワークの構築

災害発生時には、外国人住民に情報伝達する上で大きな力となる日本語支援ボランティア間のネットワークを形成

京都府北中部日本語教室ネットワーク会議

	第 1 回	第 2 回	第 3 回
月 日	8月26日（月） 10:30～12:30	1月9日（木） 10:30～12:30	3月16日（日） 12:30～14:00
場 所	綾部市 I・T ビル 綾部市男女共同参画センター		京都府国際センター
議 題	・日本語教室の紹介 ・日本語支援ボランティア 研修会の開催計画	・日本語支援ボランティア 研修会の開催結果 ・当センター平成26年度 事業	平成26年度事業 ・日本語初期指導研修会 ・日本語支援ボランティア 養成講座
参 加	北中部地域のボランティア日本語教室（市町国際交流協会）、 京都にほんご Rings 等		
	18名	14名	8名

京都府内の地域日本語教室により構成される「京都にほんご Rings」と連携

- ・ 同会が活動の本拠を当センター内に設置（平成23年度～）
- ・ 同会と協働して、事業を企画実施

“学びあい” わいわいセッション

〔共 催〕 京都にほんご Rings

〔日 時〕 11月10日（日）10:00～12:30

〔場 所〕 京都府国際センター

〔内 容〕 府内4教室のプレゼンテーション

分科会形式で質疑応答、総括セッション

〔対象者〕 地域の日本語教室で活動する日本語支援ボランティア

〔参加者〕 39名



◆ モデル・カリキュラムの作成（文化庁委託事業）

「地域日本語教室」を支援するためモデル・カリキュラム、教材を作成し現在試行中

〔協力者〕 指導者：京都教育大学教授 浜田 麻里 氏

作成者：京都「えき」日本語教室 講師、京日会 講師

〔内 容〕 「生活者としての外国人」に対するボランティアによる日本語教育の標準的カリキュラムや学習者用テキスト等を作成 → 年度内に完成、公表

◆ 日本語プライベートレッスンの実施

センター登録ボランティアが、学習希望者に対してマンツーマンレッスンを実施

〔期 間〕 通年（学習希望者・登録ボランティア双方が合意する期間）

〔場 所〕 京都府国際センター

〔対象者〕 外国人住民 〔実施者〕 延べ1,385名

◆ 日本語学習支援ボランティアの募集

平成25年度 71名

文化庁委託（助成）事業に係る成果発表

平成23年度から取り組んでいる文化庁委託（助成）事業の成果について、文化庁から高い評価をいただき、「モデル・カリキュラム作成」「日本語支援ボランティア育成支援」「広域的ネットワーク構築」等の成果を発表しました。

平成25年度 日本語教育研究協議会

[月 日] 11月2日（土）

[場 所] 大阪市内（梅田センタービル）

[内 容] ◇文化庁施策（説明）

◇文化審議会国語分科会日本語教育小委員会の審議状況（報告）

◇「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案を活用した取組事例発表（プレゼンテーション）

・ 京都府国際センター

・ 大阪府教育委員会事務局

◇平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業事例発表

・ 京都府国際センターほか 全10団体（ポスターセッション）

◇「生活者としての外国人」のための日本語教育ワークショップ、総括



平成25年度 都道府県・市区町村等日本語教育担当者研修

[月 日] 11月27日（水）

[場 所] 文化庁（三田共用会議室）

[内 容] ◇文化庁施策（説明）

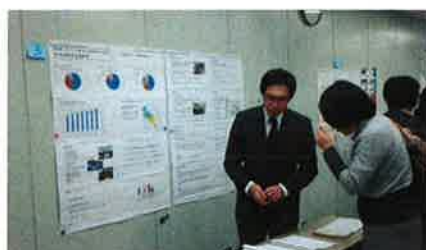
◇文化審議会国語分科会日本語教育小委員会の審議内容（報告）

◇先進事例の報告（プレゼンテーション）

・ 京都府国際センター

・ 飯田市公民館

◇講演と演習



(3) 社会参画促進事業 ～ 多文化共生プラットフォームの構築

◆ 外国人児童の教育支援

外国人住民の定着が進み、国籍や文化、習慣等で多様な背景をもつ子どもや保護者が増えていることから、支援のための取組を実施

教育支援

「新入管法」施行から1年 外国につながる子どもの教育～現状と課題～

〔主 催〕 京都府国際センター

渡日・帰国青少年（児童・生徒）のための京都連絡会（ときめき）

〔日 時〕 7月27日（土）14:30～17:00

〔場 所〕 京都府国際センター

〔内 容〕 新入管法施行から1年経過後の現状と課題について、講師を招き解説

〔参 加〕 外国人児童・生徒の教育に取り組む方
保護者など 51名



日本語を母語としない保護者への支援 ～外国につながる子どもを育てる～

〔主 催〕 京都府国際センター、京丹後市国際交流協会

〔日 時〕 10月21日（月）13:30～16:30

〔場 所〕 京丹後市（京丹後市役所）

〔後 援〕 京都府教育委員会、京丹後市教育委員会、京都府、京丹後市

〔内 容〕 講演「外国語につながる子どもの教育から見える保護者の直面する課題」

講師：多文化共生センター大阪代表理事 田村太郎 氏

ワークショップ「課題の整理と解決方法を考える」

紹介「京都府国際センター作成の支援ツールについて」

〔参 加〕 外国人児童・生徒の教育に取り組む方、保護者など 25名



外国語につながる子ども・保護者サポーター研修

〔主 催〕 京都府国際センター、生涯学習かめおか財団、亀岡国際交流協会

〔共 催〕 亀岡市、亀岡市教育委員会

〔日 時〕 12月3日（火）10:15～16:00

12月7日（土）10:15～15:30

〔場 所〕 亀岡市（ガレリアかめおか）

〔後 援〕 京都府教育委員会

〔内 容〕 「多文化共生概論&外国につながる子どもと保護者の現状と課題」

講師：多文化共生センター大阪代表理事 田村太郎 氏

「バイリンガルの言語習得」

講師：立命館大学 教授 清田淳子 氏

「外国につながる子どもたちへの日本語指導」

講師：京都市教育委員会指導部学校指導課 指導主事 大菅佐妃子 氏

「外国につながる子どもの教育を通して見える保護者の直面する課題」

コーディネーター：児嶋きよみ 氏 (ディスカッション)

〔参 加〕 外国人児童・生徒の教育に取り組む方、保護者など 延べ91名



外国につながる子ども・保護者サポーター研修（南部地域）

〔主 催〕 京都府国際センター

〔共 催〕 京都にほんご Rings

〔後 援〕 京都府教育委員会

〔日 時〕 2月 1日（土） 13:30～16:30

2月 9日（日） 10:15～15:30

2月16日（日） 13:30～16:30

〔場 所〕 京都府国際センター

〔内 容〕 「外国につながる子どもと保護者の現状」

京都教育大学 教授 浜田麻里 氏

京都府教育委員会 学校教育課 指導主事 久保知也 氏

「外国につながる子どもたちへの日本語指導

～子どもたちの現状に応じた授業づくりと教材」

京都市教育委員会 学校指導課 指導主事 大菅佐妃子 氏

「子どもの『学力』の多面性と

地域における支援活動の意義」

目白大学

副学長 佐藤郡衛 氏



「地域における取組事例の紹介&まとめのワークショップ」

京都教育大学 附属桃山中学校 教員 佐々木稔 氏

朋友館 西澤悦子 氏

こどもひろば 鵜飼聖子 氏

コーディネーター:

南宇治中学校

教員 宮崎愛子 氏



[参 加] 日本語支援ボランティア、スクールサポーター、学校教員等
延べ 123名

◆ 外国人住民と支援者のための生活相談会

[日 時] 3月13日(木) 13:00~17:00

[場 所] 京丹後市役所 会議室

[共 催] 京丹後市国際交流協会 [後 援] 京都府、京丹後市

[内 容] 相談対応 4件(うち3件には中国語通訳を手配)

・子どもの呼び寄せについて

・在留資格の変更、永住資格の取得について 等

*外国人女性の会パルヨン「外国人女性のための何でもしゃべれる会『ブフー』」と
同時開催

[日 時] 3月29日(土) 10:30~12:30

[場 所] 京都府国際センター 府民交流サロン

[後 援] 京都府、京丹後市

[内 容] 外国人女性・支援者22名が参加

・子どもの教育、結婚・離婚等について 等

◆ 地域国際化ネットワーク会議

府内市町村国際化協会及び市町村国際化担当職員等と連携し、地域性に応じて事業を進めるため情報交換を行った。

[日 時] 2月20日(木) 13:00~14:00

[場 所] 京都府国際センター

[参 加] 府内市町村国際化協会、市町村等 9名

[内 容] 実施事業に関する情報交換

◆ 多文化共生推進のための人材養成 （京都府補助対象事業）

地域の人材

各地域で多文化共生推進の基盤となる人材育成の機会づくり

セミナー：外国人住民とともにつくる地域の未来

～交流人口を増やして地域に活力を～

〔日 時〕 5月22日、29日（水）13:30～16:30

〔場 所〕 京丹後市（京丹後市役所 峰山庁舎）

〔共 催〕 京丹後市国際交流協会、京丹後市

〔後 援〕 京都府

〔内 容〕 「多文化共生の地域づくりのこれから」

講師：（特活）多文化共生センター大阪 代表理事 田村太郎氏

「持続可能な社会のための多文化間介護」

講師：（社）グローバル人財サポート浜松 代表理事 堀永乃氏

ファシリテーター：京丹後市国際交流協会 副会長 水野孝典氏

〔参 加〕 府民60名



セミナー：在住外国人に対する地域の役割

〔日 時〕 5月30日（木）13:30～16:00

〔場 所〕 城陽市（文化パーク城陽）

〔共 催〕 城陽市国際交流協会

〔後 援〕 京都府、城陽市

〔内 容〕 「浜松における日本語教育と人材育成の実践を通して」

講師：（社）グローバル人財サポート浜松 代表理事 堀永乃氏

〔参 加〕 府民29名



多文化共生セミナー

「多文化社会における情報発信 ～多様性の重視と少数者の視点～」

〔日 時〕 2月20日（木）14:00～16:30

〔場 所〕 京都府国際センター

〔内 容〕 講師：吉富志津代 氏（特定非営利活動法人 多言語センターFACIL 理事長）

- ・ 双方向のコミュニケーションの必要性
- ・ ラジオを活用した多言語情報発信
- ・ グループに分かれてワークショップ

〔参 加〕 市町村・市町村国際化協会職員、府民等

26名



◆ 国際交流員等自主活動の支援

（2. 国際交流・国際理解の推進 に記載）

(4) 多文化共生情報発信事業

情報発信

◆ 多言語による情報発信（京都府補助対象事業）

ホームページ [言 語] 日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、スペイン語、ポルトガル語 [アクセス] 138, 575件 [内 容] 外国人住民への生活支援情報の提供、国際活動団体に関する情報提供等
メールマガジンの配信 [言 語] 日本語 [発 信] 月1回配信 [登録者] 847名 [内 容] センター事業の紹介・案内、団体活動の紹介等
携帯メールの配信 [言 語] 日本語、ひらがな、英語、中国語、フィリピン語 [発 信] 月2回配信 [登録者] 502名 [内 容] 外国人住民を対象に、生活に役立つ情報や防災情報を提供
フェイスブック・ページ [言 語] 日本語、英語 [発 信] 週2～3回配信 [登録者] 472名 [内 容] センター事業・府内イベントの紹介、外国人住民向け生活・防災情報提供等

◆ 府民交流サロンの運営（京都府補助対象事業）

- ・ 日本語学習支援の拠点として学習スペースやライブラリーを提供
- ・ 民間国際活動団体、ボランティア団体等の活動に対するスペース提供
- ・ 図書、雑誌、新聞、CS放送、展示スペース利用による情報提供

(5) 広域連携の取組

広域連携

京都市国際交流協会をはじめ近畿地域の政令市・府県地域国際化協会により構成される「近畿地域国際化協会連絡協議会」において広域連携の取組を進めている。

特に、相互支援協定（平成19年度締結）に基づき、災害時の通訳翻訳機能の共有、研修会や訓練の共同開催等、協力関係を強化している。（「災害時支援事業」の項目に記載）

国際理解促進事業

多文化共生社会の実現に向けて、世界の多様で複雑な価値観について府民に理解を深めてもらうため、当センターの国際交流員が公開講座を企画実施

国際理解講座「多文化社会～フランスとイギリス～」

〔日 時〕 5月12日（日）、18日（土）14:00～16:00

〔場 所〕 京都府国際センター

〔講 演〕 当センター国際交流員アリス・ボナミさん

（フランス ボルドー出身）

京都府国際交流員マーク・ガラットさん

（イギリス スコットランド出身）

〔参 加〕 74名



国際理解講座「魅力あふれるジロンド県」

〔日 時〕 11月17日（日）、24日（日）14:00～16:00

〔場 所〕 京都府国際センター

〔講 演〕 当センター国際交流員アリス・ボナミさん

「歴史的な風景と豊富な自然に囲まれる

ジロンド県」

「ジロンド県があなたを待っている」

〔参 加〕 38名



国際理解講座「フランスサロン」

〔場 所〕 京都府国際センター

〔講 演〕 当センター国際交流員アリス・ボナミさん

～ 食 文 化 ～

〔日 時〕 2月22日（土）14:00～15:30

〔内 容〕 食文化の歴史、美食と無形文化遺産

家庭料理の紹介、食に関する行事

+ ディスカッション

〔参 加〕 21名

～恋愛と結婚～

〔日 時〕 3月22日（土）14:00～15:30

〔内 容〕 新しい結婚スタイル、恋愛や結婚に関する世論・社会の考え

恋愛生活（結婚式、バレンタイン、価値観など）

+ ディスカッション

〔参 加〕 20名



◆ 国際交流員（当センター アリス・ボナミ国際交流員）の派遣

宇治市国際親善協会 主催 国際理解講座「歴史の町ボルドーとボルドーワイン」

〔日 時〕 5月11日（土）14:00～15:20

〔場 所〕 宇治市（宇治市生涯学習センター）

〔内 容〕 講演：ボルドーの歴史、文化を紹介

〔参 加〕 52名



アメリカン・キッズ

〔日 時〕 5月25日（土）13:30～16:00

〔場 所〕 亀岡市（ガレリアかめおか）

〔内 容〕 他国出身の国際交流員とともに、子どもと保護者を対象に、外国の室内ゲームやクラフトを楽しんだ

〔参 加〕 約30名

国際理解講座「地球っこ講座 ちがってもおなじ、おなじでもちがう！」

〔日 時〕 6月16日（日）14:00～16:00

〔場 所〕 精華町（精華町交流ホール）

〔内 容〕 ワークショップにおいてフランスの学校生活等を紹介し、文化の多様性の重要性について他国からの参加者とディスカッション

〔参 加〕 約30名



相楽連合婦人会 主催 国際理解講座

「多文化共生のための地域づくり ～ フランスって実はどんな国？ ～」

〔日 時〕 9月28日（土）13:30～15:30

〔場 所〕 木津川市（木津川市東部交流会館）

〔内 容〕 講演にビンゴゲームを織り交ぜてフランスに関する様々なテーマを楽しく紹介

〔参 加〕 約30名



京都府高等学校国際教育研究協議会 講演

〔日 時〕 11月5日（火）15:00～16:30

〔場 所〕 京都府立久御山高等学校（久御山町）

〔内 容〕 フランスの多文化社会の現状と課題を紹介し、これからの日本の多文化共生社会について意見交換

〔参 加〕 25名



**アカデミック・ラボ 異文化研究「多文化フランスと日本における多文化共生の現状」
特別講義**

〔日 時〕 11月8日（金）15:40～17:00

〔場 所〕 京都府立嵯峨野高等学校

〔内 容〕 プレゼンテーション、ゲーム、
グループワーク等を通じて、
多文化共生についてフランスや
日本の現状と課題を紹介し、今後どのように実現できるのか意見交換

〔参 加〕 1年生17名



なんたにあん kids' カーニバル

〔日 時〕 1月26日（日）13:00～15:30

〔場 所〕 南丹市国際交流会館イベントホール
（南丹市）

〔内 容〕 国際交流員がフランスのブースを担当
・ゲームなどフランス文化体験
プログラムを実施
・子どもたちと交流し、外国文化や生活について体験する機会をつくる。

〔参 加〕 111名



「亀岡ワールドフェスタ 2014」

〔日 時〕 3月2日（日）13:30～16:00

〔場 所〕 ガレリアかめおか

〔内 容〕 フランス文化担当として参加
・「世界のおやつタイム」にフランス
家庭料理ヨーグルトケーキを提供
・子どもセッションで世界の食文化の
違いについて参加者と交流

〔参 加〕 150名



◆ 国際交流員等自主活動の支援

留学生、子育てしている保護者のための「簡単にできるお弁当」料理教室

〔企画実施〕 京都府国際センター アリス・ボナミ国際交流員

〔日 時〕 6月29日（土）14:00～17:00

〔場 所〕 宇治公民館

〔共 催〕 宇治市国際親善協会

〔参 加〕 留学生、子育てしている保護者等 20名

〔内 容〕 お弁当メニューの紹介、料理教室



3. 国際協力の推進

国際協力

国際協力活動促進事業

◆ JICA（独立行政法人 国際協力機構）京都デスクの配置

当センターに駐在する JICA 国際協力推進員を支援

◆ 国際協カステーション（第13回）の開催

京都府内を拠点に活動する国際協力活動団体の参加を得て、京都駅ビル及び京都府国際センターで展示、活動報告、個別相談対応を行った。

[共 催] JICA 関西

[月 日] 9月14日（土）～15日（日）10:00～18:00

[場 所] 京都駅ビル2階インフォメーション前、京都府国際センター

[対象者] 国際活動団体、府民

◇ブース展示（京都駅ビル2階 インフォメーション前広場）

協力：NPO 法人 関西 NGO 協議会

パネル展示や売上が途上国支援につながる商品販売を通じて参加団体が活動紹介を行い、NGO 相談員が参加者の個別相談に対応。

◇国際協カカフェ（京都府国際センター）

協力：NPO 法人 テラ・ルネッサンス

11セッション。フェアトレードの飲み物を楽しみながら、国際協力入門講座や参加団体の活動紹介を聴き、情報交換、質疑応答を実施。

[参加者] 19団体

一般参加者 約2,400名



◆ パネル展等の開催

各地で国際協力や国際交流を積極的に行っている民間活動団体等を広く紹介

時期	展示団体	展示内容
4 月	JICA 京都デスク	京都府出身の青年海外協力隊 in A F R I C A (イン アフリカ)
	NICE 西日本国際ワークキャンプセンター (関西事務局)	ボランティア世界まるごと周遊記 ～ヨーロッパから南米まで～
5 月	南丹市国際交流協会	南丹市国際交流協会によるイベントの記録
6 月	けいはんな文化学術協会	関西学術研究都市における「国際子どもキャンプ」「子ども科学キャンプ」「中学生グローバルキャンプ」
	G. P. I. 関西教育里親会京都支部	スリランカの旧・内戦地域への支援を訴えたもの
7 月	当センター	日本文化体験 ～祇園祭への外国人住民参加～
8 ～	JICA 京都デスク、当センター	国際協カステーション紹介
9 月	The Pass 児童画の国際交流を進める画塾協会	世界の子どもの絵 展覧会
	京都エスペラント会	エスペラントー世界の人々をつなぐ言葉
10 月	JICA 京都デスク	B o k k J a m b a a r セネガル紹介展
	日本文化紹介 京手まりクラス	四季を彩る手まり展
	公益社団法人 日本国際民間協力会、NICCO (ニッコー)	国際協力 ～シリア人道支援とマラウイでの飢餓の起きない村づくり～
11 月	おこしやす 折り紙	折り紙を通じた国際交流展
	日本国際写真連盟	J I P F 国際公募写真展
12 月	南丹市国際交流協会	フィールドトリップ in なんとん 2013
1 月	墨染会	万国書き初め展
2 月	向島学生センター	京都にある小さな地球
	特定非営利活動法人 道普請人	自分たちの道は自分たちで直す
3 月	日本伝統生け花紹介グループ	京都・小栗栖日本語教室 第6回 おはな発表会
		外国籍府民いけ花クラスの紹介パネルと作品展

京都

地域面3ページ

京都支局 〒602-0877 京都市上京区
河原町通丸太町上ル
TEL 075(211)3151 FAX 075(241)2152
kyoto@mainichi.co.jp
学研・宇治支局 〒611-0021 宇治市
宇治宇文字2の26
TEL 0774(21)2084 FAX 0774(21)2080
gakken-uji@mainichi.co.jp

舞鶴支局 〒624-0854 舞鶴市
円満寺100の9
TEL 0773(76)4000 FAX 0773(76)5240
maiduru@mainichi.co.jp
【広告問い合わせ】 075(213)3481
【購読問い合わせ】 0120-468012
【掲載写真の購入】 06(6346)8355
—平日10～18時

外国人 災害対応に不安

避難場所低い認知度

外国人住民は災害への危機感が日本人より希薄な一方、発生時にどのように行動していいのかわからないなど災害時対応に不安感を抱いている。府国際センターが実施した府内在住の外国人住民への防災アンケートで、こんな現状が浮き彫りになった。アンケート結果が報告された10月31日の府外国籍府民共生施策懇談会では、災害の恐ろしさや避難所の周知、平易な日本語を使う工夫など、外国人への情報伝達的重要性が指摘された。【藤田文亮】

府内でアンケート 506人回答

センターが昨年11月、今年1月、府内在住の外国人966人に書面でアンケートし、506人から回答を得た。回答者の国籍や出身地域は、最も43%の中国で、次いで韓国・朝鮮10%、フィリ

ピン8%、台湾7%、インドネシア5%など。年齢層では20歳代が58%、性別では女性が62%だった。また、留学生が43%を占め、在留期間も3年未満が67%だった。

災害への意識の質問では、災害種別で不安感を持つ割合が最も多かったのが地震で、これも不安「やや不安」が計58%。次いで台風37%、集中豪雨34%、津波32%だった。しかし、同種の日本人対象の調査(2011年8月、明治安田生命)では台風が91%になっているなど、多くの項目で日本人よりも危機感が少なかった。

災害時に心配なことは「家族の安全」が87%、「電気・水道・ガス」「通信手段」「食料確保」がいずれも81%前後で、日本人対象の前述調査と同様の傾向だった。しかし、「帰宅困難」が69%、「避

外国人住民を対象にした防災アンケート結果などを受けて災害情報伝達について議論する「府外国籍府民共生施策懇談会」メンバーら
—京都市上京区の府庁職員福利厚生センターで

平易な日本語で情報伝達を

避難所の確保が64%と、日本人より20～30%高かった。

災害への備えでは、自分が避難する指定場所がどこにあるかについて「知っている」はわずか25%だった。大阪市(11年度)、三重県(12年度)などが日本人対象に行った調査では8割前後となっており、認知度の低さが際立っている。このほか、避難ルート確認や非常持ち出し品準備などの対策を「している」は45%、防砂訓練や防災講習会への参加経験は35%にとどまっていた。更に、電話による災害用「伝言板」「伝言ダイヤル」についても「知っている」は18%で、「使い方を知らず」は4%しかいなかった。

日常生活では、日本語能力については、「テレビのニュースを聞き取れる」の30%に対して「ほとんど聞き取れない」と「簡単な単語は聞き取れる」が計29%、「新聞や雑誌が読める」の36%に対して「ほとんど読めない」と「ひらがなは読める」が計23%となった。

町内会や自治会活動への参加は、「まったくしない」だけでも71%に及んだ。近所付き合いが希薄なうえ、報道や拡声器による災害情報も届きにくい現状が明らかになった。

先月31日の懇談会ではメンバーの学識経験者や在日外国人らから、「災害情報では『高台』『火の元』『安全』など、日本人でなければ理解できないような表現も多く、見聞きしても内容を理解しにくい」「留学生が多く、自治会に入っていない場合は避難訓練を知らせる回覧板も来ない」「地震のない国から来ると、その恐ろしさが実感できない」などの意見が出た。そして、地震や津波の映像で実際の被災を知らせる方法や、避難情報の平易な日本語への翻訳、自治体が外国人登録などの際に指定避難所を周知する——などの対応策が提案された。

懇談会座長の上子秋生・立命館大政策科学部教授(地方自治)は「アンケートの結果は貴重なデータ。日本人が当たり前に持っている災害に関する言葉や習慣が外国人に伝わるための取り組みが必要」と話していた。

命を守るために



揺れが収まって



恐怖心を和らげる

状況の説明



机の下に入って
頭を守る



倒れる物に注意
X 故障修理
エレベーター



● 異色の波



電話・インターネットの不通

● 田原の町 全開の笑顔

★女團圓6
條区6選挙
(佳市をくたし)



外国語対応のある
施設・組織のリスト化
ビクトグラム(図記号)
の作成






喫煙禁止 飲食禁止 救護所 お手洗い

「交通エコロジー・モビリティ財団」作成

光
線
を
所
蔵
を
観
る
に
使
わ
れ
る

スティーブ・ジョブズ



地震時の外国人サポート

東京都には留学生や観光客などで大勢の外国人がいる。中には地震がない国から来たり、強い照れから身を守るすべを知らない人も多い。その後の影響に対しても日本人以上に陰影や恐怖を感じやすい外国人には、どんなサポートが必要なんだろうか。

(宮城 友成氏)

初歩の知識・情報から伝えて

「地獄に下る義務は外国人の所だ。
罪科にも、大學の家
でいふにだんだん」 「日本人は幼少時
から防犯教育を受け
（歴史本が手紙を） 歴代はこうし刺すべ
くなくとも知らなかつたか一定知識はある。こ
うして、我々の機軸も どの地獄がない国で育
たず、一日おぼろげな 大外人には発射と書
いたのだ。200年 動転しやすう」。京
年の中絶電をい年の 府内陸せんへの近
東日本と東京文庫し 徳川幕府時代は話。

回を「ター」が府内在
 住の外人らにも人に
 「地震発生時にまず何
 をするか」を尋ねたと
 いう。 「外に逃げる」
 (I should) が「多い」
 安全を確保する (I
 should) として、
 りんをきいて「地震
 多かったです。」「火元の確
 認」「出口の確保」の
 回答があった。 「火
 元を確認」が8割。 「正
 しい」も1割ほど。
 地震の際、避難路の
 確保は「必要」では
 ないが、
 地震の際に、
 避難路の確保は、
 必要とされている。

橋ノロハ岸から
 倒れしつゝハユウ
 一は度までたゞた
 舞ひ出るとはな
 足腰一が腰だちも
 膝裏を叩くまじ
 ねだ、腰をたさ
 だの事なしたつた
 一（腰）をたさ
 一の、甲羅をたさ
 きたらぬら、腰だ
 （腰腹）の（腰腹）を
 腰ハ（腰腹）を
 一（腰）ハ（腰腹）を
 一（腰）ハ（腰腹）を

200

災害時に多用する言葉は、
堅使わない単語も多く、口
話ができる外国人でも理解

知るべき地震

二の力は加わらないことになり
ます。しかし、海
内陸の地震は、海
を越すには、長
に加わる力を増加
す。

断層には

Q 断層が動くことで地震が起こるといふことですが、原因としてどんな力が働いているのですか。

A 近畿地方には、東西方向の圧縮力（押しつぶす力）が働いています。この力の原因は、太平洋プレートと日本列島のプレートの衝突によって分かっていますが、太平洋プレートが日本列島のプレートを押しつぶそうとしていることが原因です。

「やさしい日本語」の例

洗濯 → 後から来る地震
避難する → 逃げる
避難する → 気をつける
雨水 → 水道が止まる
う固まる → 道々道を行く
古き新緑 → 大丈夫かどうか調べる

伝える

機、ブロック塀などが倒れてくる▽エレベーターは使えない▽外に飛び出すのはかえって危険▽など想定できる。事前に避難場所を指定し、避難経路を確認しておく。また、避難が完了したら、周囲の人々に「避難完了」と知らせる。避難が完了したら、周囲の人々に「避難完了」と知らせる。避難が完了したら、周囲の人々に「避難完了」と知らせる。

やさしい言葉で正しく

災害時に多用する言葉は、誤解を招く言葉も多く、目録が読める外国人でも理解が難しい。発音は発音で通じ、誤解を招く言葉も多く、目録が読める外国人でも理解が難しい。



和英英語、二重否定避けて

具体的には、発音に配慮を要する言葉は通じ、誤解を招く言葉も多く、目録が読める外国人でも理解が難しい。発音は発音で通じ、誤解を招く言葉も多く、目録が読める外国人でも理解が難しい。

地震を知る

上の力は加わらないことになり、断層が動くことで地震が起こるといわれています。

断層には二つの力が関係

断層が動くことで地震が起こるといわれています。断層が動くことで地震が起こるといわれています。

近畿地方には、東西方向の圧縮力が働いています。この力の原因は、太平洋プレートが日本列島を西向きに押しています。太平洋プレートが日本列島を西向きに押しています。

被災した外国人を支援するため、関連情報の翻訳などにあたるボランティアら



城陽に府内外のボランティア集結

このため、近畿地域国際化協会連絡協議会の協力を得て、府内外のボランティアに呼びかけた初めての訓練を実施することにした。

多言語支援センターが運営訓練

振り返りでは、「どの言葉の通訳者でも巡回班に配置するが難しい」「チラシなどに記す固有な言葉などにはルビが必要」「ホームページの作成ソフトに慣れる必要がある」などの意見が出され、改善策を練ることになった。

被災地の巡回班の通訳者が不足しているという声があるなど、緊急時の対応も必要。

訓練のなかでも「避難所など被災地の巡回班の通訳者が不足しているという声があるなど、緊急時の対応も必要。」

総務班が、市の災害対策本部などから被災状況や避難所などの情報を収集し、情報班が集約。その情報をメールで受け取った通訳者が、英語や中国語、ポルトガル語などに訳し、E班が市国際交流協会のホームページにアップしたり、チラシを作ったりした。

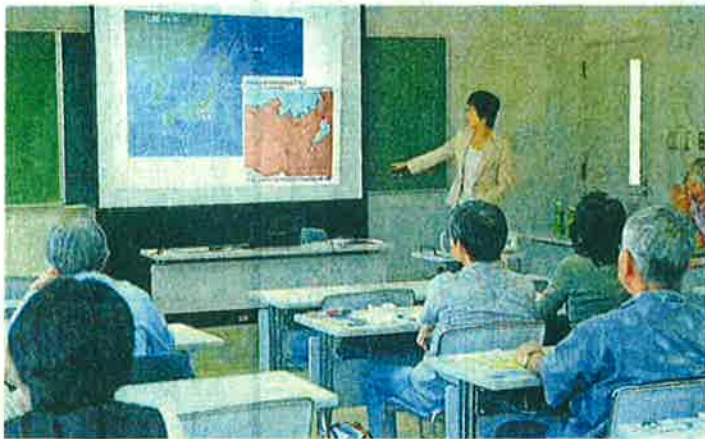
訓練のなかでも「避難所など被災地の巡回班の通訳者が不足しているという声があるなど、緊急時の対応も必要。」

被災外国人支援考えよう

2014年1月28日(火) 産経新聞 朝刊
現地災害多言語支援センター運営訓練

(仮)飯塚隆志

26日に行われた訓練は、強い地震で城陽市内で大きな被害が発生したとの想定で、京都や大阪、兵庫、滋賀の国際交流ボランティアら20人を含む総勢43人が参加した。NPO多文化共生マネージャ全国協議会(大阪市)の高木和彦副代表理事の指導の下、支援センターを開設し、総務、情報、E班の3班に分かれて訓練を行った。



災害時、外国人に情報を伝える言葉について学ぶ受講生たち(南丹市園部町・市国際交流会館)

災害時の外国人支援へ

情報の伝え方学ぶ

南丹で研修会

台風や地震など災害が起きた時、外国人被災者を助ける手だてに情報を伝えるためとして、やさしい日本語の研修会が28日、南丹市園部町の市国際交流会館で開かれた。

災害時の外国人支援に役立てるため、市国際交流協会と府国際センターが主催。日本語教室ボランティアを中心に、南丹市と亀岡市の22人が参加した。

講師は、「やさしい言葉にする」「一文を短くする」「二重否定は使わない」など、ルールを挙げた。

(二松啓紀)

都下(京区)の杉本篤子さんが務めた。台風18号や東日本大震災での経験を踏まえ、「何げない言葉でも、災害時の日本語は専門用語が多く、外国人に分かりにくい。辞書を引いたとしても、どう行動して良いのか分からない」と指摘した。

その上で、「簡単な言葉にする」「一文を短くする」「二重否定は使わない」など、ルールを挙げた。

京の留学生 若者らと交流

南丹 座禅や茶道体験



座禅を体験する留学生たち(南丹市日吉町天若・市日吉町郷土資料館)

京都市内の大学や日本語学校に通う留学生と、南丹市などの若者が交流する「フィールドトリップ」が、南丹市日吉町の府民の森(市日吉町)で行われた。南丹市国際交流協会と府国際センター(下京区)が、国境を越えて若者同士の交流を深めようと毎年開く。米国、中国、インド、イスラエルなど15の国・地域から43人の留学生が同市を訪れ、小学生から社会人まで45人とイベントを楽しんだ。参加者は座禅に挑戦し、北桑田高(右京区)の茶道愛好会のお点前で茶道を体験した。京都市都立工芸大(南丹市園部町)の学生の指導で、ヒノキを削り箸を作った。

日本語学校で学ぶ英国出身のリック・ミッチェムさん(39)は「座禅は足が痛くなったが、雑念を捨てて自身の内面を深く考えることができた」と話した。

(細谷周平)

2014年2月21日(金) 京都新聞 朝刊

多文化共生セミナー「多文化社会における情報発信」

外国人向けのチラシの改善点について話し合うワークショップ
(京都市下京区・京都府国際センター)

2014. 2. 21 金



多文化社会 情報共有を

多文化社会における情報発信を考えるセミナーが20日、京都市下京区の京都府国際センターで開かれた。神戸市のNPO法人多言語センターFACIL(ファシル)の吉富志津代理理事長(57)が東日本大震災時、外国籍住民によるコミュニティーラジオ放送の立ち上げに関わった経験を語り、少数派の視点を地域づくりに取り入れる重要性を訴えた。

吉富さんは大阪大グローバルコラボレーションセンター特任准教授。ラジオや月刊誌を

下京でセミナー

外国人の孤立防ごう

通じて多言語でさまざまな情報を伝え、孤立しがちな外国人の支援に取り組んでいる。

講演では、東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市のフィリピン人女性たちが母国語と日本語でラジオを放送し、自分たちの考えを地域社会に発信した事例を紹介。「外国人が排除されないためには、彼らと地域が相互理解を深め、情報共有することが大切だ」と語った。

外国人に分かりやすいチラシ作りを考えるワークショップもあり、参加者26人が5班に分かれ、日本語教室の案内などすでに発行されている外国人向けのチラシの改善点を話し合った。セミナーは同センターが主催した。(大西幹子)